

第 39 回日本言語テスト学会研究例会

日時：2014 年 5 月 10 日（土）13 時 30 分?17 時 30 分

場所：てんぶす那覇 第 1 会議室（インターネット接続可）

テーマ：インハウス CAT の言語テストへの適用

13:30-13:40 開会の辞

13:40-14:30

題目：「教員にやさしい CAT、学生にやさしい CAT」

発表者：木村哲夫（新潟青陵大学）

概要：Moodle の問題バンクに作成した多肢選択問題をもとに、コンピュータ適応型テスト（Computerized Adaptive Testing:CAT）を実行する追加モジュール M-UCAT を紹介する。M-UCAT は、数理的なことが苦手な教員でも利用しやすいように配慮されており、テストの難しさ（目標正答確率）を調整できる仕組みも備えているので、“教員にやさしい CAT” であり “学生にやさしい CAT” を目指している。

15:00-15:50

題目：「オープンソースプラットフォーム Concerto を利用したコンピュータ適応型テストの開発」

発表者：水本篤（関西大学）

概要：コンピュータ適応型テスト（Computerized Adaptive Testing: CAT）は項目応答理論を用いて、より少ない問題数でより高い精度の能力測定が可能であることが知られているが、研究者や実践者が自作の CAT を開発するには技術的なハードルが高い。

本発表では、比較的設置が簡単で、オープンソースプラットフォームである Concerto を使用し、自作の CAT を開発した経緯と検証結果、そして今後の適用可能性などについて報告する。

16:20-17:10

題目：「小規模な回答データでも LRT-CAT なら使える？」

発表者：秋山實（eラーニングサービス）

概要：潜在ランク理論（Latent Rank Theory, LRT）は、項目応答理論が適用できない小規模な回答データでもアイテムバンクを構築でき、CAT を運用することができる。

本発表では、150 名・150 アイテムから 20 名・20 アイテムまでの複数の回答データから構築したアイテムバンクを使って、LRT-CAT がランク数 2 から 5 に於いて推定誤差がどの程度になるか、シミュレーションの結果を示し、インハウス CAT の可能性について述べる。

題目：「J-CAT 開発ストーリー」

発表者：今井 新悟（筑波大学）

閉会の辞

参加費：会員無料、当日のみ参加 500 円

問合せ：秋山實（株式会社 e ラーニングサービス）

（akiyama@e-learning-service.co.jp）

なお、18:00 から 20:00 まで「糸満屋」に於いて懇親会を予定しております。